

# パンタナール通信

南北米福地開発協会

会報

2011年9月1日

96号

レダ、洪水から復興への道を歩む



## ドラム缶筏でトラクター運び

奥地に簡易コラールを早急に作るということで、トラクターを必要としますが、道路が支流の水で一部冠水して渡れない為、筏（いかだ）を作って冠水していかない道まで運ぶことになりました。トラクターはパンクしないようタイヤにシリコンを入れていきますので、重量があり、筏もドラム缶十六個を並べてその上に板を張り、筏にして載せることにしました。トラクターは計算以上に重く筏の浮力では充分に支えきれないで水の底にドラム缶がこすれるため、馬とボートと労働者を動員して1km程の上陸地まで運びました。大変な労力でしたが、パブロさんを先頭に、良く全うしてくれました。

## 壁の化粧

修練所の階段の壁やテラス、手すり、正面柱等、様々な所が剥げたり、汚れたりして来ています。第二旧館（オフィス）も内外の壁が剥がれて来ていたので、全てペンキ塗り直しや磨きがかけられました。建物は常時メンテナンスが必要です。

## 活動活発化

公館やゲストハウスも手当てを待っています。特に水が引いた後の対処は時間と手間がかかることでしょう。

自然との共存を願いながらも、水位上昇で基地を守るという体制が暫く続きましたが、ようやく頂点を過ぎ、ゆっくりながらも水位が下がり始めた為、中田所長を中心に、再びトラクターを駆使して、滑走路や道路の整備が始まりました。また、豚ランドの囲いやドアの修理が行われました。修練所大ホールでの避難生活から少しずつ、従来の旧館に引っ越しも始まりました。

(飯野記)



### 禍い転じて福、やはりレダは希望の地

七月二五日、土手が決壊した、という知らせが夜中にあり、中田、上山、パブロさんなど、総動員で数時間対応し、事なきを得ました。牧童のマリオさんが大きな音がするというので、出てみたところ、羊小屋前の本道を横切って埋められた大型側溝から、逆流して支流の水が入り込んで来ているのを発見しました。一時的に鶏小屋、第一植樹園などが浸水しましたが、土をトラクターで運び、側溝入口を完全に塞ぎ、浸水した水はポンプで一日がかりで排水し、適切な処理のお陰で、地面は雨が欲しかった時期だけに広範囲な水撒き作業の代わりとなりました。沢山の鳥達はその水辺や草むらに餌を求めてやって来て喜んでいました。



### 土手作りに掘った所は養殖池に転換

現在養育中のパカーも順調に成長しており、一石二鳥、禍い転じて福と成す、の如くに、水位上昇のお陰で一先懸命土手作りの為、土を掘った所を全て養殖池に変えて行く予定です。例えば写真左は、修練所南側、第二植樹園の隣も、もう少し形を整えて、池になります。更にその南側には、既に第4、第5の池があります。その周辺は、悉く池に予定しています。いわゆるリオ牧場と言われていた広範囲の空間が養殖池へと転換されて行きます。それらが出来上がれば、養殖プロジェクトは一気に上昇です。担当の中田所長も、これで希望を発信出来ると張りきっています。



### 突然のゲストは冒険家

四人のアルゼンチンの若者が、カヌー（カヤック）でレダに着きました。パラグアイ河上流のブラジルの街から四千kmの川下りをして、ブエノスアイレスまで五カ月の長期旅です。ここまで2カ月かかったとのこと。仕事を休んで、エコロジストとして環境保護を目的に、自然を観察、調査しながら、撮影をしてその資料を大学や教育機関に提供して行く活動をしています。「スポンサーはいないので、貧しいんです。」と言って笑っていました。基地を見たいと言う彼らに、レダの警察官が案内役を買って出ました。彼らが研修所のプールを見て、早速「泳いでもいいか」と尋ねて来ました。

「良くシャワーを浴びてから自由に使って下さい。」という返事で大喜びで仕度に戻りました。プールで、長い間泳いだ後、夕食を皆で一緒にし、交流のひと時をもちました。





## 牧畜の報告（佐野報告）

牧畜のほうは川の水位が例年よりはるかに上昇。そこで川沿いをあきらめ、フェリックスが六月上旬にレダから十数キロ離れた奥地のフィルメと呼ばれる五百ヘクタールほどの自然牧草地へ移動しました。そこは昨年上山さんが針金を張って囲いを完成してくれていた所でした。水も前オーナーがタハマールを作ってくれていたので水の確保も問題なくそこにキャンプを張り、放牧しました。問題はチグレと呼ばれるジャガーでそれ故、毎日夜には牛を人間のキャンプ地まで集めて保護したそうです。七月初め私がレダに帰りましたが、十五日からパラグアイの口蹄疫の予防注射の期間ということに牛に注射をする施設を早急に作らなければなりませんでした。そこで業者を連れてきて緊急に（一週間）施設を作り、SENGZA（国の牛の管理機関）の人が来るのになんとか間に合わせました。レダ基地から奥地に行くには水に囲まれているために車では行けません。カヌーであるところまで行ってそれから馬で行くしかありませんでした。しかしどうしても奥地開拓にはトラックターやトラックが必要なのでパブロ氏がドラム缶をつけた、いかだ、でトラックターやトラックを向こう側に渡すことを提案。（水のある地域では実際行われていること）現在は乾季なので一旦水のないところに渡れば後は問題ないのです。

そして工夫に工夫を重ねて三日ほどでそのドラム缶を十五個付けた、いかだ、を完成させ、トラックターを渡すことに挑戦しました。労働者を全員動員し二トン以上もあるトラックターをいかだに乗せたままではよかったです、水かさが浅くドラム缶が地に付いてしま

最後に馬で引つ張ってようやくより深いところまで引つ張り出すことに成功。その後も、いかだ、が不安定で左右に揺れるので労働者が腰まで水につかって押し回していきました。しかし一キロ近い距離があり、途中にも浅いところがあつたりして困難を極め、二日かかりで、最後には向こう岸から隣のトラックに引つ張ってもらつてようやく向こう岸に渡すことに成功しました。その後、私のトラックやトラックターに付ける草刈り機やトラクターも渡し、今は現地でフル回転で仕事をしています。トラックでキャンプ地まで行く道も作りました。

現在は、さらに五キロ行つたところに七百ヘクタールほどのハラクエと呼ばれる自然牧草地帯があり、そこに牛を移動しました。そこも以前のオーナーが牛を飼っていた所で水を貯めるタハマールがあり、周囲がアランプレで囲われています。そこで現在三人の請負業者を入れてアランプレの修理をしています。また、さらに数キロ行つたところに更に広いポートルトと呼ばれる牧草地が広がっており、そこも以前のオーナーが使っていた所でタハマールも作られています。レダの奥地には無限の可能性があるようです。現在そこにも業者を入れてアランプレを張るようになっています。

一、ハラクエにおけるアランプレの囲いの完成  
（二―三か月程度）

二、ポートルトにおける

アランプレ囲いの完成（二―三か月）

三、フィルメを含めてすべての

四、各牧草地における水飲み場の整備

五、水につからない道路の建設

六、人工牧草地の開墾  
（レダからハラクエまで十数キロ）

六、人工牧草地の開墾

# 第11回国際協力青年ボランティア隊

会員ならびに関係者からの支援を受け、8月24日、無事出発いたしました。心から皆様の支援に感謝いたします。9月9日に青年達は成田に到着し、柴沼は1週間後、16日になります。次号ではボランティア隊の活動報告をいたします。期待して、お待ちしております。（責任者 柴沼より）

受け入れの伊達さんより（8月18日メールにて）

『大変ご苦勞様です。ボランティアの出発ももうすぐですね。佐野さんはオリンポ、エスペランサと受け入れ準備に動いています。オリンポの農場整備はほぼ完了したようですが、配水システムとかは遅れそうです。インディオの村での植樹の数も半分程度の50-60本になるようです。

こちらは日中30度を越える暑さで、蚊も増えてくるでしょう。ボランティア達はうちわを持ってくれば便利かと思えます。エスペランサでは、ニームの肥料やりや植え替え作業、サッカー、バレーボールの交流、文化交流などを予定しています。ボランティアのメンバーで歌える歌があれば良いと思います。』

## 第15回ピースライフセミナーご案内

川崎市民プラザにて（9月23日（金）、24日（土））

暑さ厳しき折柄皆様、いかがお過ごしでしょうか。秋の気配が漂う頃、上記セミナーを開催いたしますのでご案内いたします。

国や世界の環境問題、私達の家庭がどのような方向性、理念を持ってさまざまな問題に取り組み、対処していくかは誰にとっても重要な課題であると思えます。このような時私達は「価値ある生き方」を深く知って行動できるようにしたいものです。

第15回ピースライフセミナーで「自分の人生」と「世界の問題」を見つめなおしてみませんか。新しい本来の自分を発見し、希望ある未来を実現したいと願われる皆様のピースライフセミナーへの積極的なご参加を心からお待ちしております。

（詳しく知りたい方は事務局に連絡して下さい）



### 地球家族として 自然を守りましょう

南北米福地開発協会

会員の募集中

南米、パラグアイ、パンタナール地域へのエコツアー ならびに植林活動を通じて

生態系の維持と強化を促進し、その地域をモデルとし、世界に環境保護の大切さを

訴えています。会費は月五〇〇円、毎月、パンタナール通信を送ります。

また、各種のセミナー、エコツアー等の案内をいたします。

南北米福地開発協会 事務局

〒二二一三〇〇〇一

神奈川県川崎市高津区

溝口三十一番十五

岩崎ビル四F

電話 〇四四一八二九一二八二二

Fax 八二九一二八二二〇

会費納入 郵便口座

一〇一八 〇一七七六八〇四七一

代表 柴沼邦彦

E-MAIL office@asd-nsa.jp

ホームページ

http://www.asd-nsa.jp